

長畝ふるさと通信



【2026年8月号】

■ 激震！概算金18,800円

8月18日、JA全農新潟が令和8年産米の概算金を発表しました。新潟一般コシが18,500円、魚沼コシが21,000円、佐渡コシは18,800円と過去に例がない前年比4割近い下落率となりました（R7年産佐渡認証コシは最終的に33,500円）。令和7年産米の異常な価格つり上げが消費者離れを起こし、結果として8月末現在も過剰在庫を抱えることとなり、新米を受け入れる倉庫がないという…。JA佐渡は今春に「最低保証額23,000円」を提示しましたが、いつの間にか反故にされ今回の発表となりました。昨年JAは「確実な集荷を進め、コメを安定的に消費者に供給するため」にこれまでにない高額な概算金を出して、その結果過去一コメが余るという笑えない話です。ニュースではもう廃業せざるを得ないという生産者の声が連日聞こえてきます。日本の農政はどこを向いているのでしょうか。



■ 8月31日から収穫開始です

昨年より6日早い稲刈りとなります。8月は台風の影響もなく、酷暑日も少なく比較的穏やかな夏でした。昨年のように毎日水不足に頭を抱えることもなく、収穫を迎えることができました。最終的には収穫・乾燥・調整して結果が出ますが、期待値は高まっています。これで米価が高かったら文句ないのにな～。

■ 現地視察交流会～原点回帰を・・・

8月23日、現地視察交流会を開催しました。今年は大阪から3軒、名古屋・横浜・沖縄から1軒ずつ計6軒のお米屋さんに参加してくれました。令和7年産米の高騰から過剰在庫を抱え苦しんでいる現状を聞かせていただきました。また、一変した令和8年産米価格の乱高下に戸惑い、新米が古米より安くなることに先行き不安の声も……。そんな中、今後お互いが安定して継続的な取引を続けていくための真剣な話し合いとなりました。我々生産者は20年前に立ち上げた「朱鷺と暮らす郷認証米」の原点に立ち返り、自然との共生・生物多様性を軸とした品質・食味の良いコメづくりをもう一度見直し、気候変動にも負けない安定した供給を目指すこと。また、お米屋さんは産地や生産者の特性を顧客に説明し、高くても買ってもらえるヘビーユーザーを専門店ならではの販売で獲得していくことなど前向きな意見が多数交わされました。夜の懇親会の締めには「今の苦難を乗り越えればきっと明るい未来がみえてくるはず！」との声に一本締めで結束したのでした。何だか元気出た……。



■ 令和8年産米もご愛顧くださいますよう、お願いいたします。

別紙のとおり令和8年産トキと暮らす郷コシヒカリの年間予約案内をいたします。「消費者にとっても生産者にとっても納得できる価格なんてない」といつも申し上げていますが、現段階で熟慮を重ねた結果です。先の交流会でお米屋さんが「米価高騰でコメの消費離れが起きているのは実は若者ではなく、年金生活の高齢者なんだ」と聞き、ショックを受けました。国民の主食であるはずのコメが買えない日本はどうなっているのか。熱意をもってコメを作り続けることのできない日本はどうなるのか。せめておいしいコメを腹いっぱい食べられる国になってもらいたい。



今年の夏の佐渡は帰省客はもちろん、観光客も大勢来島されたようで、ホテル・民宿・飲食店はどこも予約で満杯状態。世界遺産の効果でしょうか。経済が回っているな～と実感しました。空き地に植えたミニひまわりも綺麗に咲きそろい観光客の足を止めています。